

oBIX対応ルームコントローラ (マイクロCPU内蔵リレーユニット)

中小規模の既存設備の省エネ運転、エネルギー管理を実現

通信プロトコルにoBIX1.0 (TCP/IP、WEBサービス)を採用

oBIX (Open Building Information. Exchange)はOASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) で定められたファシリティ・データの相互運用を実現する国際標準規格です。

日本国内ではNPO LonMark Japanが翻訳、普及促進を図っています。

TCP/IP、WEBサービスにより、オフィスLAN、無線LAN、インターネットなどのネットワークを利用することが可能です。

通信機能を有さない照明スイッチ、空調スイッチを遠隔制御する機能

中小の既存ビルで一般的な通信機能を有さない照明スイッチ、空調スイッチを内蔵リレーにより、簡易BEMSなどからスケジュールによる最適な制御を行います。

時間外の運転はタイマー付「延長スイッチ」により運転

簡易BEMSによる最適制御で照明、空調が停止した後は、「延長スイッチ」により運転を行います。このスイッチにはタイマーにより一定時間後に自動的に照明、空調を停止します。

温度、湿度、CO2センサ、電力量計接続インタフェース

温湿度センサ、CO2センサ、電力量計接続インタフェースを有し、省エネ制御を行うと共に、エネルギー管理のデータを収集することが出来ます。

WEBサービスによる相互接続

ビル管理装置、簡易BEMSのみでなく、PDA・スマートフォンなどの携帯端末と相互接続することが可能です。

東京都環境科学研究所省エネシステム実証事業に導入し、その効果を評価しています。

システム構成（例）

マイクロCPU内蔵リレーユニット

